

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

平成30年4月1日

学校法人 電波学園  
ぎふ国際高等学校

## 平成29年度教育目標

### ぎふ国際高等学校

- 全ての生徒が安心して楽しく学び、確かな学力を身に付け、自己実現の達成に向け教育環境・課程・相談等の充実を図る。
- 基礎学力の定着を図り、思考力・判断力・表現力を育み、学ぶ喜びが感じられるよう主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。
- 社会の一員としての礼儀・社会常識・言葉遣い等を涵養し、豊かな生活や人間関係を築けるよう実践的態度を育成する。
- 自他の人権を尊重し、誰もが安心して楽しく生活できる集団関係の醸成。
- 守るべき規律・規範を明確にし、生徒の主体的遵守を促すべく職員の共通理解・共通指導を徹底させる。
- 全職員がカウンセリングマインドを持って受容・理解・支援の指導に徹する。
- 社会性／コミュニケーション能力の向上を図り、自己理解に基づく適切な進路決定の実現に向けて指導の充実を図る。
- 自己の生活・健康・安全・環境についての意識を高め、自己管理能力の育成を図る。
- 本校の存在意義や良さを、保護者・地域・中学校・高等学校・特別支援学校等関係機関により広く知ってもらおう。

自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校経営全般
2	今年度目標	①安心・安全な環境の提供 (危機管理の徹底、教育相談・生徒指導の充実、校舎の安全管理) ②教育の質的向上 (教育環境の充実・教科指導力の向上・教職員の資質向上) ③多面的な情報発信 (関係機関や中学校・保護者との情報交流、信頼関係の構築)
3	目標達成に向けての取り組み方法	①教員の校内外の巡視強化と素行面で心配な生徒の受入れ不可を徹底 ②非常時に対する事前対応策の確立 ③校内外研修への参加および情報の共有化を徹底 ④岐阜県内の中学校や高校・適応指導教室等との連携強化 ⑤保護者・生徒への確実な情報発信(HPの有効利用、SRメールの活用方法検討)
		評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①外国人講師による英会話の実施。専門学校、大学講師による特別講座。 A (B) C D ②発達障がい専門家による校内研修を実施する。 A (B) C D ③インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の研究と実践を行う。 A (B) C D ④中学校・高校・適応指導教室等の訪問や各種の合同説明会に参加する。 (A) B C D ⑤姉妹校専門学校での体験学習や多様な講習会を実施する。 (A) B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①教育方針や指導目標について分りやすく説明を受けてい A (B) C D ②個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、 自分の居場所を得ることができた。 A (B) C D ③学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。 A (B) C D ④学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足している。 A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①落ち着いた雰囲気です授業を受けことができ校内も落ち着いている。 (A) B C D ②頭髪・服装等の生活指導を受ける生徒が減少してきた。 A (B) C D ③定期試験不合格生徒に対して補習授業も実施し、勉学に対する手助け実施した。 A (B) C D ④中学校・高校・適応指導教室等と情報交流と連携強化ができた。 A (B) C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①タブレットによる学び直し(Thanksドリル)の授業の研究と実践を行う。 ②インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の更なる研究と実践を行う。 ③アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、更に情報発信を行うよう努め、理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組む。

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

自己評価報告書

1	評価領域・分野	教務(教育課程・学習指導)	
2	今年度目標	①基礎学力の向上 ②理解しやすい授業計画	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①学びなおしのためのThanksドリルについて、定期的な振り返りをして活用方法を共有する。 ②生徒への声掛けや、保護者への案内をして、定期的な補充授業を実施する。 ③多様な生徒に対して満足感を得られるような授業計画の作成(ICTの活用など) ④ユニバーサルデザイン授業を実施する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①半期ごとに振り返りをしたが、有効活用には至っていない。 ②個々では、補習を行っているが、定期的な補充を学校としては行えなかった。 ③各教室にプロジェクターとスクリーンが入り、映像やスライドを使った授業を多く行った。生徒の興味を引き、理解を深めることができた。	A B <input checked="" type="radio"/> C D A B C <input checked="" type="radio"/> D <input checked="" type="radio"/> A B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①基礎学力の定着を実感させられていない。 ②教員個々では補習を行っているが、学校としては動けていないので、保護者の認知度が低い。 ③概ね高評価である。	A B <input checked="" type="radio"/> C D A B <input checked="" type="radio"/> C D <input checked="" type="radio"/> A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①学び直しをどのように行うか、学び合いなどの授業法の研究が必要である。 Thanksドリルをいかに生徒に活用させるかの研究が必要である。 ②追試験の補習は学校として行っているが、普段の補習も検討が必要。 ③ICTなどのより効果的な活用を研究。	A B <input checked="" type="radio"/> C D A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①〇〇学習の授業により、基礎学力をつけさせるために、Thanksドリルの積極的活用。また、オリジナル教材の開発。2日コースの生徒の自主学習にもThanksドリルを活用させる。 ②外国籍生徒や低学力生徒を中心とした、定期的な補習の実施を検討。 ③視覚に訴える授業を実施し、誰もが理解しやすい授業を行う。生徒状況を見つめなおし、各教科のシラバスを完成させる。	

自己評価報告書

1	評価領域・分野	生徒指導	
2	今年度目標	①いじめがなく、生徒が安全・安心に登校できる学校づくり ②生徒ひとりひとりが規範意識をもてるようにする ③人のために自らが進んで主体的に行動できるようにする	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①教育相談、担当者との連携強化、朝の声かけ指導、授業中や放課中校内巡視 ②MSリーダーズ活動、街頭啓発活動の参加 ③地域住民交流のためのボランティア活動・清掃活動への参加 ④年3回のいじめ問題等のアンケートの実施、年2回のいじめ防止等対策委員会の実施	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①玄関での「声かけ」を行い心と服装の乱れがないかと、校内巡視を行いいつも見守っていることを生徒に意識させる。 ②SNSの書き込みに対する対応をし、より多く生徒の悩みや不安を聞く。 ③薬物乱用防止講座の実施。 ④学校から岐阜駅までの校外清掃を実施。 ⑤年3回(内、1回は記名式)いじめ問題等のアンケートを実施。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①マナーや社会のルールを守るように適切な指導を行う。生徒69.4% 保護者72.1% ②個性に応じた服装、頭髪等の適切な指導を行う。生徒71.9% 保護者76.5% ③いじめや対人トラブルが発生しないための指導、また速やかな対応を行う。生徒68.9% 保護者69.6% ④自転車運転、運転免許の取得制限など、交通安全指導を行う。生徒60.0% 保護者69.6% ⑤非常災害時における対応策を明確にする。生徒74.1% 保護者77.2%	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B (C) D A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①直接的な対人トラブルは減っているが、SNS上などの見えない部分でのトラブルが増えた。スクールガーディアンを導入し、早期発見早期解決している。 ②毎年1年生の5月頃にSNS等による問題が起こる傾向がある。入学当初からネットリテラシーを身に付けさせる指導をする。	A (B) C D A (B) C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①安全・安心な学校づくりを行うために、些細な事も見逃すことなく職員全員が一丸となって声かけ指導を行う。 ②生徒ひとりひとりが規範意識をもって生活できるように、高校生が組織する規範意識啓発推進委員会 (MSリーダーズ) と生徒会による啓発活動をサポートし、職員間の情報共有と共通指導を行っていく。 ③年3回のいじめ調査アンケート(1回記名で自宅記入式)を実施。匿名いじめ通報アプリにより生徒の状況を察知し早期発見対応をする。 ④ネットリテラシーを身に付けさせ、SNS上でのトラブルを未然に防止する講話の実施。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

自己評価報告書

1	評価領域・分野	教育相談	
2	今年度目標	①全職員が、カウンセリングマインドを大切にされた教育相談を心掛け、細やかな指導を進めることができる。 ②生徒指導 教育相談 臨床心理士 養護教諭 担任の、しっかりとした連携体制を作り上げる。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①各担任による個別教育相談を定期におこなう。 ②朝や下校時の校内巡視の充実と、その都度の声掛けによる情報収集を細やかにおこなう。 ③得た情報を必要に応じて適切な関係機関で共通理解して、より良い方向へ進める。 ④県や地区の教育相談担当者会での情報伝達を、必要に応じておこなう。 ⑤青年期の心理特性と発達障害をテーマにして専門家による校内研修を実施する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① その都度必要に応じて実施し、課題が残れば生徒指担当者・臨床心理士・養護教諭と連携し、細やかに指導を継続していくことができた。 ② 情報収集するだけでなく、必要な案件は関係者で共通理解し、指導に生かしてきた。 ③ 情報伝達の時間の取り方と内容伝達や研修の方法を、管理職と相談していく。	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A B Ⓒ D</p>
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価(達成・ほぼ達成の割合を%で表した)	①学校は様々な面で生徒の困りごとなどを理解しようとしている。保護者78% 生徒72% ②心理士・養護教諭がいるので安心感をもてる。保護者81% 生徒64% ③いじめ トラブルが発生しないための指導や対応をしている。保護者68% 生徒68%	<p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
6	総合的に捉えた成果・課題	①全体的に、生徒への相談体制が迅速かつ充実しつつある。 ②生徒及び保護者に対する教育相談力の向上をめざした研修が必要である。 ③校内特別支援教育計画については、対象個人の1年の成果と課題をまとめ、次年度に生かす方向で進めている。	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A B Ⓒ D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
7	次年度に向けた改善策・目標	①生徒指導・心理士・養護教諭・担任・教育相談の連携をさらにきめ細やかに進める。 ②校内の特別支援教育計画について、次年度に引き継げるよう記録を残し、指導に役立てる。 ③次年度は県教育相談会議において、本校の発表に当たる。事例やその経過、指導の成果など、組織で連携し、作成していきたいと考えている。→本校の校内研修につなげたい。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

## 自己評価報告書

1	評価領域・分野	進路指導	
2	今年度目標	①社会性/コミュニケーション能力の向上を図り、自己理解に基づく適切な進路決定の実現に向けて指導の充実を図る。 ②適性や長所等の自己理解を深める。 ③具体的な進路目標を早期に持たせることにより、主体的に自己実現を図る。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①小規模の説明会を実施。四大・短大・専門・就職希望者に応じた説明会を2～3回実施 ②1学年からのキャリア教育の充実と進学意識の啓発 ③進路指導だよりを定期的に発行し、生徒の意識を啓発する。 ④ 大学や専門学校へ進学した先輩の話を聞く場を設けたり、先輩の言葉を掲示する。 ⑤進路関係の校内掲示を充実させる。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①希望分野別小説明会該当者の6割強が参加。生徒の意識を高めることができた。 ②進路に関する情報の共有を進路だよりや、職員会議を通じて行った。(対職員) ③毎月進路だよりを発行し、今月来月の予定を生徒に周知。同時に本校HPでも案内。 ④2年次生対象の進路説明会にて先輩の体験談を実施。 ⑤進路指導室前の掲示板へ進路情報の掲示。1階玄関横に先輩の写真を掲示。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①進路選択に関わる情報提供が十分になされている。 ②学校は進路説明会などを適切に行っている。 ③担任は子どもの将来の希望や適性に沿った具体的で適切な進路指導を行っている。 ④将来の希望や適性に沿った具体的で適切な進路指導を担当から受けている。	A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①進路決定率70.6%は例年並みを達成。出口指導はおおむね良好 ②四短大希望者に学内外の模試を推奨。18/23(受験者/進学希望)。一般受験者が7割。進学者への受験指導の充実。 ③夏季休暇の面接指導及び企業展参加者増。参加者の半数は内定。 ④個人面談を中心にした個々の生徒に応じた進路指導の実施と保護者に対して「三者懇談の充実、HP等を使った実施内容の公開、連絡」の徹底を図る必要がある。	<input checked="" type="radio"/> A B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A B C <input checked="" type="radio"/> D
7	次年度に向けた改善策・目標	①進路指導の教材を総合の時間に利用してもらい、生徒の意識を均一なレベルに引き上げる。 ②キャリア教育の教材及び内容の充実を本校の特性に合わせて行う。 ③進路だよりと職員会議を利用し、キャリア教育情報発信の充実。取り組み姿勢の均一化。 ④個人面談の充実 ⑤求人先の開拓	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

自己評価報告書

1	評価領域・分野	特別活動(社会見学・異文化体験・修学旅行)
2	今年度目標	①安全かつ円滑な社会見学(遠足)を実施する。(社会見学) ②生徒の満足度が高い社会見学(遠足)を継続して行う。(社会見学) ③長年実現できなかった異文化体験旅行の実施をする。(異文化体験旅行) ④安全に配慮しつつ、生徒の満足感が高くなる修学旅行の計画と実施。(修学旅行)
3	目標達成に向けての取り組み方法	①当日の予定や合理的配慮が必要な生徒等、事前に確認し教員間で情報共有し、準備をする。(社会見学) ②旅行後に生徒へ向けたアンケートを実施し、今後の反省点や改善点を見つけ、次回以降に活用する。(社会見学) ③新入生を中心に早期に宣伝とアンケートを実施して大勢の参加を囲い込めるようにする。(異文化体験旅行) ④教育旅行を意識するとともに生徒の意見も取り入れた旅行計画を立てる。事前指導を徹底し、生徒の不安感を払しょくする。(修学旅行)
		評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①事前に考える対策を講じ、大きな問題なく当日の実施が出来た。 ②職員から生徒らの要望を聞き、すべてではないものの希望を取り入れつつある。 ③学校見学会等で在校生による学校生活紹介をしてもらい関心を高める。 ④昨年度初めての東京方面修学旅行は、生徒の参加も85名と概ね順調であったが、本年度は行程を見直した結果、生徒98名(約15%)の参加増があった。
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①各施設での滞在時間・待機時間や昼食の内容に検討の余地はある。 ②見学先の候補地をより生徒にとって魅力的なものを探求する余地はある。 ③異文化体験旅行の参加者が最終的に9名あった。 ④生徒へのアンケートを見る限り、見学場所と費やす時間の長短で意見が分かれた。 次年度はこれを基に、更なる質的向上を図りたい。29年3月実施分
6	総合的に捉えた成果・課題	①全体の流れに大きな滞りは無いものの、細部において改善の余地はある。 ②大須商店街のような、施設ではなく屋外での散策を含んだ行程を行えた。 ③念願であった異文化体験旅行が8年ぶりの実施できた。 ④主体的な行動を促すことで、より満足度の高い教育旅行にする。(3・22～3・24予定)
7	次年度に向けた改善策・目標	①今年度で行程や安全管理について改善できる点を洗い出し、改善を図る。 ②質の向上のため、より具体的な設問を置いたアンケートを行い内容のさらなる改善を図る。 ③早期に地元の業者と計画を立案する。 ④班別研修の時間を多くすることで、集団活動が苦手な生徒も参加できるようにする。主体的に旅行に参加させるため、事前指導の時間を多くし、班別研修の事前準備をしっかりとらせる。生徒の意見を聞き、行程を吟味する。

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分



自己評価報告書

1	評価領域・分野	保健指導	
2	今年度目標	学校保健活動について、広く周知し、学校全体で取り組むことの出来る体制を目指す。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①保健室利用状況を定期的に職員全体に周知し、より個人に応じた対応を行えるようにする。 ②保健室利用状況を生徒にも周知し、生徒会と連携し保健活動への意識付けを行う(献血の啓発含む)。 ③家庭から受け取った健康管理票の内容をこまめに更新し、他の職員も閲覧しやすいようにする。 新入生向けに配布した学校生活支援シートの内容も活用する(保護者会と連携し2・3年生にも実施してみたい)。 ④現在実施できていること(各通信による指導、担任・臨床心理士との連携、防災関係等)は継続して実施する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①保健室の利用状況を関係職員に回覧・情報共有し、チームで対応できた。 ②保健室来室者への対応が中心となり、それ以外の生徒への保健教育・指導の機会が少なかった。 ③家庭や・医療機関からの健康管理票や学校生活管理指導票の情報を随時更新し、共有ファイルで全職員が最新情報を閲覧できるようにした。 ④継続実施ができた。	A (B) C D A B (C) D (A) B C D (A) B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①健康診断や保健だより(月1冊)などを通して、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。 (生徒69%) ②生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。 (保護者69%)	A (B) C D A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①保健室来室者への対応については、職員間の情報共有を含めよくできた。 ②保健室来室者以外の生徒に対する保健教育・指導の機会が十分でない。 ③葉の使い方の講演会の実施については、学校薬剤師の協力により実験等も行い、生徒は分かりやすく抱きずに聞けた様子。実施時期について、修学旅行前もよいが、夏の集中講義の後も効果がありそう。	(A) B C D A B (C) D A (B) C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①一層、学校内外の情報共有・連携を円滑にし、適切な生徒対応を行う。 ②保健室来室者以外の生徒に対する保健教育・指導の機会を講習会や講話で実施するなどして増やす。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校図書	
2	今年度目標	①生徒のニーズを捉え、図書室の利用の質的・量的向上を図る。 ②それによって利用者を増加させる。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①昨年度のアンケートに従って図書を購入する。 ②少ないニーズを探る。 ③貸し出し内容を精査検討	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①概ねできた。 ②頻繁に利用する生徒にニーズを尋ねた ③貸し出し内容から潜在ニーズを予測する	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①アンケートによる本の購入	Ⓐ B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①貸出し数を1.5倍に増やす。結果は1.7倍 ②担当者の独断と願望が払しょくされていない。生徒目線がない。	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A B Ⓒ D</p>
7	次年度に向けた改善策・目標	①ライトノベルのファンは意外と多くはないので、それ以外の図書を探す。 ②探すにあたっては偏見を少なくする。意外とハイレベルな本を望み、それを読んでいる生徒も少なくない。 ③ネット検索で現代高校生の好みを探る。 ④それ以外にも図書館をよく利用する生徒に聞いて何を読みたいのかを探る。 ⑤もちろんアンケートも必要だが、それは声の大きさに偏重してしまうので、過大視は禁物である。 ⑥以上のことを鑑みて総合的にバランスよく判断する。決して独断は許されない。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

自己評価報告書

1	評価領域・分野	渉外(生徒募集)	
2	今年度目標	①本校のよさや特色の理解のために、パンフレットや説明会で一層効果的にアピールする。 ②生徒の現状や進路の報告、中学在校生に関する教育・進路相談をさらに充実させるためにタブレット端末(ipad)を活用し、中学校との日常的な相談体制を作る。 ③高等学校を訪問した際に、担当者との面談・相談の場をしっかりと設けていく。 ④回数が縮減されるが、相談活動を充実させるとともに、新たなアピールの場を模索する。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①本校のよさ＝真面目・いじめがあない・進学率が高い等の特色を前面に出す。 ②本校在校生や卒業生の動向を中学校に確実に伝え、中学在校生の現状をiPadを活用してつぶさに把握する。 ③高校入学後に行き詰まる生徒の動向を、高校訪問を通して確実に把握する。 ④見学会や相談会での教育相談的対応を徹底する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①パンフレットや説明会で本校の特色やよさを伝えることができた。 ②中学校訪問絵はipadを活用し、様々な相談に対応し、助言や相談活動を行うことができた。 ③高等学校訪問では、担当者と十分な話し合いの時間を持つことができた。 ④学校見学会や進学相談会には前年度以上の参加者があり、きめ細かい相談ができた。	(A) B C D (A) B C D A B (C) D (A) B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①中学校や適応教室との信頼関係が深まっている。 ②人物重視という基準が浸透し、安心して生徒を預けられると言う学校評価が定着してきている。 ③見学者への相談や助言等により、本校へ進学したいと考える生徒が増加している。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①1年次入学生は前年度より増加している。 ②7割を超える不登校傾向生徒が、抱える高1ギャップの解消につながる親切・丁寧な見学対応や相談活動ができた。 ③高等学校との情報交流や連携を深めることができた。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①インパクトと魅力あるパンフレット・チラシを作成する。 ②中学校との信頼関係を密にするため、中訪や日常の相談活動を充実させる。 ③学校見学会や進学相談会での教育相談対応を一層深める。 ④春と秋に高校訪問を行う。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

自己評価報告書

1	評価領域・分野	事務	
2	今年度目標	① 効率的な事務処理 ② 生徒・保護者のニーズに適応されながら、役割を判断し、それを実践していく。 ③ 教育環境の整備	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 業務マニュアルを改善する。また、情報の共有をはかり、円滑に処理を進める。 ② 生徒・保護者が何を必要としているかを考え、コミュニケーションを図り信頼される学校づくりに取り組む。 ③ 教育に関わる施設設備を教員とともに考え整備する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 教職員と連携を取り合い、効率的かつ合理的に事務処理ができた。 ② 業務に携わり、生徒・保護者とのコミュニケーションができたと思う。 ③ 教務システムとの連携により、事務処理環境をより整備することができた。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 「訪問時・電話対応は適切である」について若干の向上が見られた。 ② 「生徒に対する態度」について若干の向上が見られた。 ③ 生徒・保護者に対する事務説明について若干の向上が見られた。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
6	総合的に捉えた成果・課題	① 立場や考え方が多様であるため、現状にあわせた学校運営を 実践し、信頼される学校となる。 ② 事務処理能力のスピード化。	A (B) C D (A) B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	① 役割を判断し、実践していくことがより一層求められる。 ② 保護者・生徒の対応に適切かつ満足感を持ってもらえるようにする。 ③ 職員の資質向上のため研修を実施する。また、業務の洗い出しを行い効率的な処理を行う。 ④ 教務と事務のシステムの共有化。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

## 保護者による評価

次の項目 ##

A. よくあてはまる B. ややあてはまる C. あまりあてはまらない D. まったくあてはまらない E. わからない

数値は割合(%)を示します

通番	項目	A	B	C	D	E
教育方針・学校経営	1 学校の教育方針(個性によるクラス分け等)や指導の内容に共感できる。	38%	48%	9%	1%	4%
	2 学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	24%	45%	17%	2%	12%
	3 子どもは現在の学校やクラスの雰囲気馴染んでいる。	25%	45%	18%	4%	8%
	4 学校(担任)は様々な面で子どもの困りごとなどを理解しようとしている。	32%	42%	12%	3%	10%
	5 臨床心理士や養護教諭がいるので学校に対し安心感が持てる。	37%	44%	12%	2%	6%
	6 学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	38%	48%	10%	1%	3%
教職員	7 保護者が学校を訪問したり、電話した時の教員の対応は適切である。	43%	44%	8%	2%	4%
	8 子どもに接する時の教職員の態度は適切である。	33%	45%	9%	2%	12%
	9 事務職員による学納金等の事務説明が明確である。	35%	45%	11%	2%	7%
学習指導	10 学校は基礎学力の定着・向上に努めている。	22%	47%	17%	2%	12%
	11 教員は熱心に学習指導(授業・補習)を行っている。	25%	43%	15%	2%	16%
	12 教員は全ての子どもが理解しやすい授業を行っている。	17%	39%	15%	2%	26%
	13 教員は子供の学習に対する理解度を把握しようとしている。	18%	44%	13%	2%	22%
	14 レポート作成など家庭学習が定着してきた。	35%	38%	18%	3%	6%
生徒指導	15 学校はマナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	29%	43%	14%	1%	12%
	16 学校は服装、頭髪等の指導を適切に行っている。	32%	44%	13%	2%	9%
	17 学校はいじめや対人トラブルが発生しないための指導や対応を行っている。	26%	43%	13%	1%	17%
	18 学校は自転車運転、バイクや自動車の運転免許の取得制限など、交通安全指導を行っている。	32%	37%	12%	0%	18%
	19 地震や台風などの非常災害時における対応策が子どもや保護者に理解されている。	34%	44%	15%	1%	6%
進路指導	20 進路選択に関わる情報提供が十分になされている。	17%	45%	20%	3%	14%
	21 学校は進路説明会などを適切に行っている。	20%	50%	15%	1%	14%
	22 担任は子どもの将来の希望や適性に沿った具体的で適切な進路指導を行っている。	20%	41%	15%	3%	20%
学校行事等	23 学校は有意義な学校行事(始業式・終業式・学校祭等)を実施している。	38%	43%	14%	1%	4%
	24 学校は有意義な校外学習(社会研修・遠足・専門学校での体験学習等)を実施している。	38%	45%	12%	1%	4%
	25 学校は生徒会活動の活性化に積極的である。	18%	39%	17%	1%	24%
	26 学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	21%	38%	17%	1%	22%
健康管理	27 生徒の衛生面に配慮し、身体健康維持に対する指導を適切に行っている。	26%	45%	11%	2%	17%
家庭との連携	28 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている。	44%	39%	12%	2%	3%
	29 学校(担任)と保護者との連携はしっかりとれている。	23%	49%	16%	4%	8%
	30 子どもは家庭で学校でのことをよく話す。	24%	43%	23%	7%	3%
その他	31 本校の保護者会は生徒の実情に応じた有意義な活動を行っている。	20%	37%	13%	2%	27%

生徒による評価

次の項目 ##

A. よくあてはまる B. ややあてはまる C. あまりあてはまらない D. まったくあてはまらない E. わからない

数値は割合(%)を示します

通番	項目	A	B	C	D	E
教育方針・ 学校経営	1 学校の教育方針や指導目標について分かりやすく説明を受けている。	28%	43%	21%	3%	5%
	2 個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、自分の居場所を得ることができた。	40%	37%	14%	5%	5%
	3 学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	22%	38%	24%	5%	11%
	4 学校(担任)は様々な面で生徒の困りごとなどを理解しようとしている。	30%	43%	17%	4%	7%
	5 臨床心理士や養護教諭がいるので学校に対し安心感が持てる。	31%	34%	20%	4%	11%
	6 学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	38%	39%	16%	3%	3%
教職員	7 先生に親しみやすさを感じている。	31%	44%	17%	4%	4%
	8 先生は悩みや相談事に親切・丁寧に対応してくれる。	31%	39%	18%	3%	9%
	9 事務職員の対応は親切・丁寧である。	40%	33%	17%	3%	7%
学習指導	10 理解しやすい授業が行われている。	23%	49%	21%	5%	2%
	11 先生は熱心に授業を行っている。	31%	44%	18%	3%	4%
	12 落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている。	42%	35%	14%	6%	3%
	13 基礎学力が身に付いてきたと感じている。	14%	39%	31%	7%	10%
	14 総合的な学習の時間の内容は有意義である。	21%	38%	27%	4%	10%
	15 レポート作成などを含め、継続的な家庭学習を行っている。	22%	34%	25%	12%	6%
生徒指導	16 社会規範を身につけるようにとの指導を受けているため、安心・安全な学習環境が築かれている。	31%	39%	19%	3%	9%
	17 学校全体として、服装、頭髪等の生徒守則が守られている。	35%	37%	18%	5%	5%
	18 学校はいじめや対人トラブルが発生しないための指導や対応を行っている。	32%	37%	18%	3%	10%
	19 学校は随時、交通安全指導を行っている。	28%	32%	22%	5%	13%
	20 地震や台風などの非常災害時における対応策を理解している。	37%	37%	18%	3%	5%
進路指導	21 進路選択に関わる情報提供が十分に受けている。	32%	32%	22%	5%	9%
	22 進路説明会の内容は満足できるものである。	28%	34%	18%	3%	18%
	23 将来の希望や適性に沿った具体的で適切な進路指導を担任から受けている。	22%	35%	22%	7%	14%
学校行事等	24 新たな気持ちを持てるような式典(入学・始業・終業)が行われ、学校生活に楽しみが持てる学校祭が行われている。	26%	38%	23%	6%	7%
	25 現在の校外学習(社会研修・遠足・専門学校での体験学習等)に充実感を感じている。	29%	36%	22%	6%	7%
	26 学校は生徒会活動の活性化に積極的である。	24%	30%	24%	4%	18%
	27 学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	27%	38%	19%	4%	12%
	28 部活動が活発に行われている。	23%	22%	21%	7%	27%

# 平成29年度 学校関係者評価委員

平成30年4月28日

## 委員名簿

役職	ご芳名
朝日大学	村橋 剛史 様
参与	石川 宗一郎 様
ぎふ国際高等学校学校関係者評価委員	堀 征二 様
木ノ本自治連合会会長	古澤 豊吉 様
坂井町町内会長	篠原 國興 様
ぎふ国際高等学校保護者会会長	八代 千彰 様
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	丸山 まさえ 様
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	山口 育代 様
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	國枝 悦子 様

## ぎふ国際高等学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	4 十分達成している	評価の平均3.5 最も重要な生徒本位の教育という芯がしっかりしている。特に重要な学校に来る習慣をつけること、そして社会性を身につけることに重点をおいて取り組み、成果をあげてきている。
	3 どちらかといえば達成している	
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標及び具体的方策の達成状況について	4 十分達成している	評価の平均3.5 重要な項目は概ね達成できているが、高めに設定してある挑戦的な目標は達成できていないものもある。
	3 どちらかといえば達成している	
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	4 十分達成している	評価の平均3.3 社会性の向上、家庭とのコミュニケーションの強化、基礎学力の向上など、課題は十分把握している。
	3 どちらかといえば達成している	
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	
4. 改善方策の策定状況について	4 十分達成している	評価の平均3.5 今年度の取り組みの振り返りを通じて、それに対して適切な現実的な対応が行われる。
	3 どちらかといえば達成している	
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	
5. 「目指す学校像(生徒の基礎学力向上・基本的生活習慣の確立に向けての継続的な指導を行い、生徒[保護者]が安心して通う[通わせる]ことが出来る学校)」について	4 十分達成している	評価の平均3.8 理想が高いため道半ばではあるが、目標にむけて着実に取り組みを行っている。
	3 どちらかといえば達成している	
	2 どちらかといえば達成していない	
	1 達成していない	



# 平成29年度 学校関係者評価報告書

学校名：ぎふ国際高等学校

## 1 学校目標

- ・「自律・進取・創造」の校訓のもと、豊かな社会性を身に付け、地域社会人として信頼される確かな基本的な生活習慣・規範意識や考え方・生き方を育成する。
- ・夢や目標をもち、社会に貢献できる自己の実現に向け、基礎的・基本的な学力の定着を図りつつ、主体的・継続的に学び続ける意欲や態度を育成する。
- ・他人の立場や思いを理解し、互いの人格を尊重し、思いやりのある言動をとることができる豊かな人間性を育成する。

### 学校目標に対する評価・意見

- ・生徒数が増えていく中、学校側はよく対応していただいていると思う。
- ・確かな学力を身に付け、自己表現の達成に向けという点で、進路指導をあらゆる分類の点で指導・相談をお願いしたい。
- ・学校の役割は多くありますが過度な背のびを求めないで継続して欲しい。
- ・社会性を身に付けるための実践対策として地域の人達に、登下校時は元より、普段からも挨拶運動を進められたい。尚、地域で行うイベント等への参加、ボランティア活動に務められては
- ・町内地域からの苦情等無し。学校の運営等については、判断ができないため記入せず。
- ・全体に高い目標を掲げているため、必ずしも自己評価が高くないところもあるが、客観的に見ると、水準以上の取り組みが行われている。
- ・今後も現状を客観的に認識し、改善すべきことは何かを把握し、それに向けて地道に取り組んでほしい。

## 2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方針が適切か
基準1 (教育理念・目的・育成人材像等)	3.4	3.8	3.4
基準2 (学校運営)	3.6	3.4	3.4
基準3 (教育活動)	3.2	3.2	3.2
基準4 (教育成果)	3.4	3.2	3.6
基準5 (生徒支援)	3.2	3.2	3.6
基準6 (教育環境)	3.4	3.4	3.4
基準7 (生徒募集と受け入れ)	3.6	3.6	3.4
基準8 (財務)			
基準9 (法令等の遵守)			
基準10 (社会貢献)	3.3	3.3	3.3

※学校関係者評価委員7名による評価の平均。

4：適切な評価である 3：ほぼ適切な評価である 2：やや不適切な評価である 1：不適切な評価である

## 3 今後の改善意見

- ・スマートフォンの取り扱いについて、生徒への指導をする回数を少し増やしたらどうか（講義など）。
- ・重点目標である学習指導、進路指導について「A評価」が10%台の数字に留まっているようですが、大切な事項ですので、さらなる努力を期待します。
- ・自治連合会主催の運動会等に生徒たちがボランティアとして参加、活動していることに感謝している。今後とも引き続き自治会の活動に貢献してもらいたい。
- ・現場の日々の努力は重要ですが、時々教員が研修や研究発表によって新しい目で取り組むことが必要だと思います。
- ・学力の向上については効果のあった取り組みを全学的に広めるとともに、新しい取り組みがしやすい環境が重要だと思います。
- ・家庭とのコミュニケーションを工夫し、生徒に対するより素早い対応、家庭の要望の吸い上げを望みます。

## 4 今後の具体的な改善方針

- ・学習指導及び進路指導の充実により、生徒・保護者が学力向上を実感でき、希望する進路へ進むことができたということを実感してもらえるような指導がさらに必要である。